

# スクラム

東京清掃労働組合墨田支部機関紙  
2007年4月30日(月)  
第21号  
教育宣伝部発行/教宣部長 岡崎広

## 第5回支部委員会報告

### 平成19年度予算人員闘争の総括について確認

4月28日、業平詰所において第5回支部委員会が行われ、この間の交渉や、各種報告等を行い、協議事項として「平成19年度予算人員闘争の総括」を確認しました。今後、各支部の総括を集約し、地連としての総括、さらには東京清掃全体としての闘争総括を行い、20年度闘争にむかうこととなります。

#### 墨田区「19年度予算人員闘争」総括

2007年4月28日 第5回支部委員会

##### I 作業計画交渉および人員交渉開始にあたって

「平成19年度」ごみ・し尿収集実施作業計画策定における基本的考え方（昨年度までの統一交渉に係わる事項）については、事業関係統一交渉の取り扱いが、残念ながら最終的な結論まで至っていない中で、各区における来年度の予算査定日程などを考慮しなければならないぎりぎりの段階を迎えていた。

こうした状況の打開に向け、都労委調査の説明や協議調整の場での取り扱いなどを踏まえ、都労委において係争中の課題とは切り離し、当面する課題として、「平成19年度」作業計画におけるこれまでの統一交渉事項については、「平成18年度」年末年始作業交渉と同様に一步踏み込んだ現実的な対応として本部が各区と交渉を行うことを判断した。

清掃部長会会長に対しこうしたわが組合の考え方を申し入れ、12月18日と19日の2日間に設定した交渉の場において、多くの区がスムーズに協議を行うなか墨田区当局は交渉を引き延ばし、本部との合意が年明けの1月12日に至ることとなってしまった。

##### II 交渉における特徴点（区の基本的考え方）

- ① 基本的に、平成18年度と同様の作業計画策定基準値（ごみ量推計及び収集作業計画量、積載基準、車両台数・作業形態等の算定）を用いる。
- ② サーマルリサイクルモデル実施については、別途協議することとするが、サーマルリサイクルの前提であるペットボトルの分別回収を徹底させる。さらに、サーマルモデル地区での食品トレーの回収を行う。

- ③ 計画人員（稼動人員・週休代替・予備）の算定についても平成18年度同様とする。
- ④ 指導業務 年度毎の重点項目を定め、年末年始期間を除き専任体制とする。今年度重点項目の設定及び指導体制については、別途協議とする。
- ⑤ 再任用・再雇用職員の活用については前年度同様とする。
- ⑥ その他
  - ・ 多量排出事業者については、民間許可業者収集への移行を図る。
  - ・ 区収集事業系ごみの減量化を図る。
  - ・ 新資源回収システムの普及に努め、資源化への区民協力度を27年度目標値の80%まで引き上げるよう努める。

##### III 交渉経過

- ① 作業計画策定に係る算定基準値については、18年度同様のものを用いている点は評価できる。その一方で、当局が無用に本部との交渉を引き延ばしたことから、予算査定日程等との関係で支部交渉の時間が極めて限定されてしまった。
- ② そのような状況下、事務折衝のなかで当局は「粗大ごみの全面委託」を示してきた。しかし、粘り強く協議を積み重ねた結果、正式提案前に撤回させることができた。

##### IV 交渉妥結

- ① 可燃・不燃については、それぞれ8.9t・6.9tの減であることから2Wの減車提案であった。支部としては、サーマルモデル実施年度であることから激変緩和措置として現状台数を求めたが、ごみ量に見合った減車であること、能率はほぼ現行どおりであることから受け入れざるを得なかった。
- ② 廃プラサーマルモデル実施については、7月・10月の2段階で行うとの提案であり、作業計画表もそれぞれ示された。配車台数は4月計画と変わらないが、モデル実施はWのS化等に対応。詳細については別途協議とさせた。
- ③ 計画人員については適正に配置させた。指導業務及び指導体制は、年間スケジュールを提示させ、それに見合った人員配置をすることとした。（これにより、指導業務配置人員が10月で6名減となる。）

##### V 総括と次年度へむけて

- ① 当局が、平成18年度と同様の作業計画策定基準値を用いたことは一定評価できる。しかし、次年度以降、区の独自性を主張しかねないことも想定し、あらゆる対応をとれる体制を築かなければならない。また、わが組合が「単組」であることを改めて認識させ、あらゆるステージでの交渉が円滑に持てるよう改めて当局を“指導”することが必要である。（直近では廃プラサーマルモデルについて等）

- ② 粗大ごみ収集については、18年度より日曜収集を委託で実施していることから、平常収集も委託との考えを示してきた。協議の末、19年度委託は撤回させることができたものの、当局は、「20年度は委託」との考えを強行しようとしている。一方的な委託は断じて許されるものではない。20年度計画策定交渉に入る前段から、当局の一方的な準備行為の監視を含め、早急に委託撤回闘争を進める必要がある。また、「委託したから関係ない」ではなく、古紙回収も含め今後も委託回収の実態把握や、そこで働く労働者とも連帯をはかり、的確な住民サービスが行われているのか目を向ける必要がある。
- ③ 廃プラサーマルモデル実施については、7月・10月とも作業計画表は示されているものの、詳細については別途協議とした。また、当局が新たに委託で行うという「食品トレー回収」についても直営での運営を視野に入れ協議を行っていく必要がある。さらに、本格実施に向け、モデルを行う間に判明した問題点については逐次、当局に指摘をしていかなければならない。
- ④ 再任用職員の本体活用については、制度の趣旨からももはや否定できる段階にはない。19年度については、暫定過員が生じていることから、ゆとりがあるかにとらえられてしまうが、定年を迎え60歳を越えている再任用職員の痛みや再雇用職員の慢性的な欠員も忘れてはならない。
- ⑤ 指導業務については、「年度ごとの重点項目を定め…」となっている。19年度については、サーマルモデル回収が開始予定であることから、それに伴う準備作業や住民周知等が山積している。その意味からも、直営収集の「核」としての認識を持ち、指導・啓発を行っていかねばならない。
- ⑥ 指導業務の具体的人員配置については、上記の理由から年間スケジュールに基づいた配置となった。また、不足の事態に備える「暫定過員」についても18年度同数であることから、受け入れることとした。

## 第78回メーデーの取り組みについて

残念ながら連合を中心とした中央メーデーは、今年も4月28日に開催されます。東京地公労は、昨年と同様に明治公園での集会を開催後デモ行進を実施し中央メーデーに合流することとなります。

一方、メーデーの歴史と伝統を守る日比谷メーデーは、日比谷メーデー実行委員会によって例年同様5月1日に開催されます。

わが組合は、メーデーは労働者の大きな闘いの場と位置付け、それに相応した集会内容やデモ行進を行うことを求めてきました。

したがって、これまでの取り組みの経緯を踏まえ、闘うメーデーの歴史と伝統を守る立場で本部の指令に基づき対応することとし、具体的には支部メーデー実行委員会を設置し取り組むこととします。

## 参加者数

・中央メーデーの参加者は各支部2名を基本とし、各地連で総数（2名×支部数）を確保する。（週休6G）

--	--	--	--

・日比谷メーデーの参加者については、青年部・女性部も含めて組合員数（4月基準）の12%を基本に割り振る。（週休1G）


## ●墨田支部メーデー実行委員会

実行委員長 執行委員長

副実行委員長 副委員長

事務局長 組織部長

事務局員 組織部員

実行委員 各専門部長（地連役員除く）

## 統一地方自治体選挙の開票結果について

4月15日告示、22日に開票された墨田区長選挙ならびに区議会議員選挙については、わが組合の方針、また、これまでの経緯を踏まえ、推薦議員を決定し我々の代弁者として議会等で発言をしていただくために当選に向けた取り組みを進めてきました。とりわけ、区長選に関しては、わが組合の西川中央執行委員長と山崎候補にて政策協定を取り交わしました。

開票結果は下記の通り、推薦3候補すべて無事に当選となりました。

《墨田区長選》 山崎 昇 65167 票 当 選

《墨田区議選》 阿部喜見子 2898 票 当 選

江木 義昭 1840 票 当 選